

2016年 2月26日 発行：島根民医連 医系学生サポートセンター
〒693-0024 出雲市塩冶神前1-6-2

Tel:0853-21-3360 Email:bunsitu@bronze.ocn.ne.jp

2月 おちらとしょ会

震災から5年...

当時の様子と福島の実況を学ぶ



島根民医連の奨学生会議を、2月25日(木)に行いました。参加学生は1年生1名、2年生2名の合計3名でした。今回の学習テーマは、“東日本大震災”で震災当時、被災地支援に行かれた松江生協病院の稲田さんと、今年福島の実況に行った担当者からお話をさせていただきました。被災地の写真を交えながらお話をしてもらい、その惨状や人手が足りない中、看護師として2交代制で支援を行われたお話しなど貴重なお話を聞くことができました。また福島の未だに復興が進まない現状や、除染が全く間に合っていないという事実を知り、考えさせられました。最後に、自分たちが何をできるかを皆で考え、このような事実を忘れず行動し続けることが大切だと思いました。3月には、宮城で全国つどいが開催されます。参加する学生には、今回学んだことを現地でさらに深めてきてほしいと思います。

おわりに

- 行動し続けることが地域の元気になる！
- 常に前に前に進むことが大事！
- いざというときの為に知識を得ることが大事！



野馬土 代表理事
三浦さん

◎学生の感想◎

- 医療の面からの支援の話を聞いたのは貴重な体験だった。集まった医師や看護師たちに指令を出す人も必要だということはあまり考えていなかった
- 震災から間もなく5年が経過するが、人々の心からあの惨状が少しずつ忘れられようとしていることを感じた。実際的な支援をすることの難しさも、稲田さんのお話しから感じた
- 「日本一美しい村」が人の住めない地になってしまったこと、悲惨な光景に心が痛くなった。そして、あまり報道されていない福島の実況を知り、実際には福島の沿岸部の復興は進んでいないのだと驚いた